

食品による生活習慣病予防に関する基礎的共同研究

研究期間：平成 12 年度～平成 13 年度

研究代表者：篠原 和毅 (独立行政法人 食品総合研究所)

研究課題の概要

食に起因する肥満、動脈硬化、心臓疾患、アレルギー、糖尿病等の生活習慣病に関して、食品による予防・治療を目指して、日米間で基礎的共同研究を行う。

(1) 総評

食品による生活習慣病予防に関する基礎的共同研究は順調に進捗しており、研究成果は概ね高い。また、目標設定、研究体制も概ね適切であり、国際共同研究の意義も認められ、一定の成果を得られた研究であるといえる。

今後この研究を展開するにあたり、そのより一層の発展を期し、留意すべき点を以下に述べる。

食と健康に関する研究は非常に重要であることは言うまでもない。しかし本研究はその予算規模を勘案すると、目的とする研究領域が広すぎると思われた。内容を絞り、深化させるべきであった。また、個々の研究間の関係、研究プロジェクト全体と個々の研究との関係を明確にすべきである。さらにヒトでの研究をより積極的に展開すべきであるなどの指摘があり、これら意見はこの研究プロジェクトに対する評価委員の一致した見解であると同時に、新たに研究を続ける上で重要な留意点である。これらを勘案してさらによりよい成果を得られることを期待したい。 < 総合評価： b >

(2) 各テーマにおける評価結果

食品成分の脂質代謝改善機能とその発現機構の解明

本研究は茶の成分が脂質代謝にどのような影響を与えるかについて調べたものである。動物実験はわが国において、ヒト試験は米国において行われた。その結果、茶の成分が脂質代謝改善に有効であることを明らかにした。この点は新知見として高く評価できる。しかしながらこの研究題目にあるように、その発現機構の解明については十分な成果は得られていない。また、これらの結果を基盤に、生活習慣病予防における茶の利用についての具体的な提言が必要である。

N-3系脂肪酸の安全性評価と生理的有効性

本研究は、N-3系脂肪酸であるドコサヘキサエン酸 (DHA) の安全性および生理的有効性について検討したものである。安全性や生理効果について問題点の多いDHAについて、その安全性を積極的に検討しようとする試みは評価できる。しかし、安全性および生理的有効性について、ヒトおよび動物について、より多角的、そして広範囲に検討すべきではなかったか。DHAには広い生理的効果が期待され、またそれだけに副作用も広い範囲で起こりうると推定される。今後の研究の展開を期待したい。

水産食品、その成分及び食品の組み合わせが生体免疫機能に与える影響の解明

従来、脂質系成分は免疫抑制的に作用すると考えられている。本研究においては、オクタデカテトラエン酸が EPA の抑制作用を解除し、共同して免疫賦活作用する

